

令和3年6月24日

定例記者懇談会 第八管区海上保安本部長冒頭挨拶

皆さんこんにちは。

本日も、ご多忙中にもかかわらず、お集まりいただき、ありがとうございます。

例年になく梅雨入りが早く、出水期における災害が想定されることから、海上自衛隊舞鶴総監部との豪雨災害対応訓練を実施するとともに、豪雨災害を始めあらゆる災害や事件事故で必要とされる当庁潜水土による合同訓練を実施したところ、多くの報道機関に取り上げて頂き、広く、府民、国民の皆さまに当庁業務の一端をお知らせすることができたのではないかと考えております。

一方で、韓国海洋警察庁との間で実施した合同搜索訓練に関するネットニュースへのコメント欄には、ほとんどが批判的なものでした。

これは、現在の両国関係を反映したものではないかと思っておりますが、あれだけ多くの批判的なコメントには、心が折れるのが本音です。

しかし、海難救助は「仁愛」の精神、すなわち情け深い心で人を思いやることをもって、海上で助けを求める者に対して、隣国を含む関係機関、水救会、民間船舶といった多くの関係者と連携して行うことが大切と信じております。

いずれに致しましても、当庁の活動を理解して頂くべく、広報を実施していきますので、引き続き、よろしく願いいたします。

さて、本日の本部からの発表事項は、

- 日本の海を守る！未来の海上保安官募集！と題して、「海上保安学校、海上保安大学校学生採用試験について」
- 「海水浴などの夏季マリンレジャーを安全に楽しむためのポイント」の2点を紹介させていただきます。

1点目の海上保安官の募集に関しては、来年度の4月から海上保安学校や海上保安大学校への入学を希望される方の採用試験の日程をお知らせするものです。

私が入庁したころは、職員数約1.2万人、予算約1,200億円でしたが、その後の我が国の海洋をめぐる情勢の変化や国民からのニーズにより、現在では職員数約1.45万人、予算2,200億円までと、組織が大きくなりました。また、法律を整備し、権限も増えています。

しかし、これら組織の予算や権限を迅速かつ的確に運用し、国民の期待に応えていくためには、人材が必要です。

当庁は自衛隊と違って人材募集を行う専門の組織がありません。

通常は警備や救難と言った現場第一線の業務に従事するもの、あるいは補給な福利厚生といった後方支援業務に従事するものが、街頭にたち、あるいは高校を訪問するなどして、募集活動を行っているのが現状です。

「安全で明るい美しい日本海」を守り抜き、受け継いだ「平和で豊かな海」を次の世代へ引き継ぐためには、より多くの若者に加わって頂くことが必要です。

報道機関の皆さまにあつては、当庁の募集活動にご理解を賜れば

幸いです。

2 点目の「海水浴などの夏季マリナーを安全に楽しむためのポイント」に関しましては、今年も不開設海水浴場が多数あることから、監視員などのいない海水浴場での事故発生が懸念されます。

このため、官民連携して不開設海水浴場に臨場して、遊泳者に直接注意を呼び掛けるとともに、今回のような機会を活用し報道機関の皆様へのお知らせ、あるいはSNSなどを活用して、広く注意を呼びかけ、事故防止を図る所存です。

また、プレジャーボートの事故の多くはエンジントラブルによるものです。車と違って毎日使っておらず、また、気温が寒くなる秋から使用していないプレジャーボートを、気候がよくなった梅雨明けに、いきなり動かすと、長期保管による影響で、エンジントラブルとなりやすい傾向があります。このため、運転前の点検の実施や、不安のある方には整備業者による点検を勧めるといった注意喚起を広く行う予定としております。

レジャー活動は自己責任という考えもありますが、1 件でも事故を無くすべく、あらゆる安全啓発活動を展開していく所存です。

私からは以上となります。